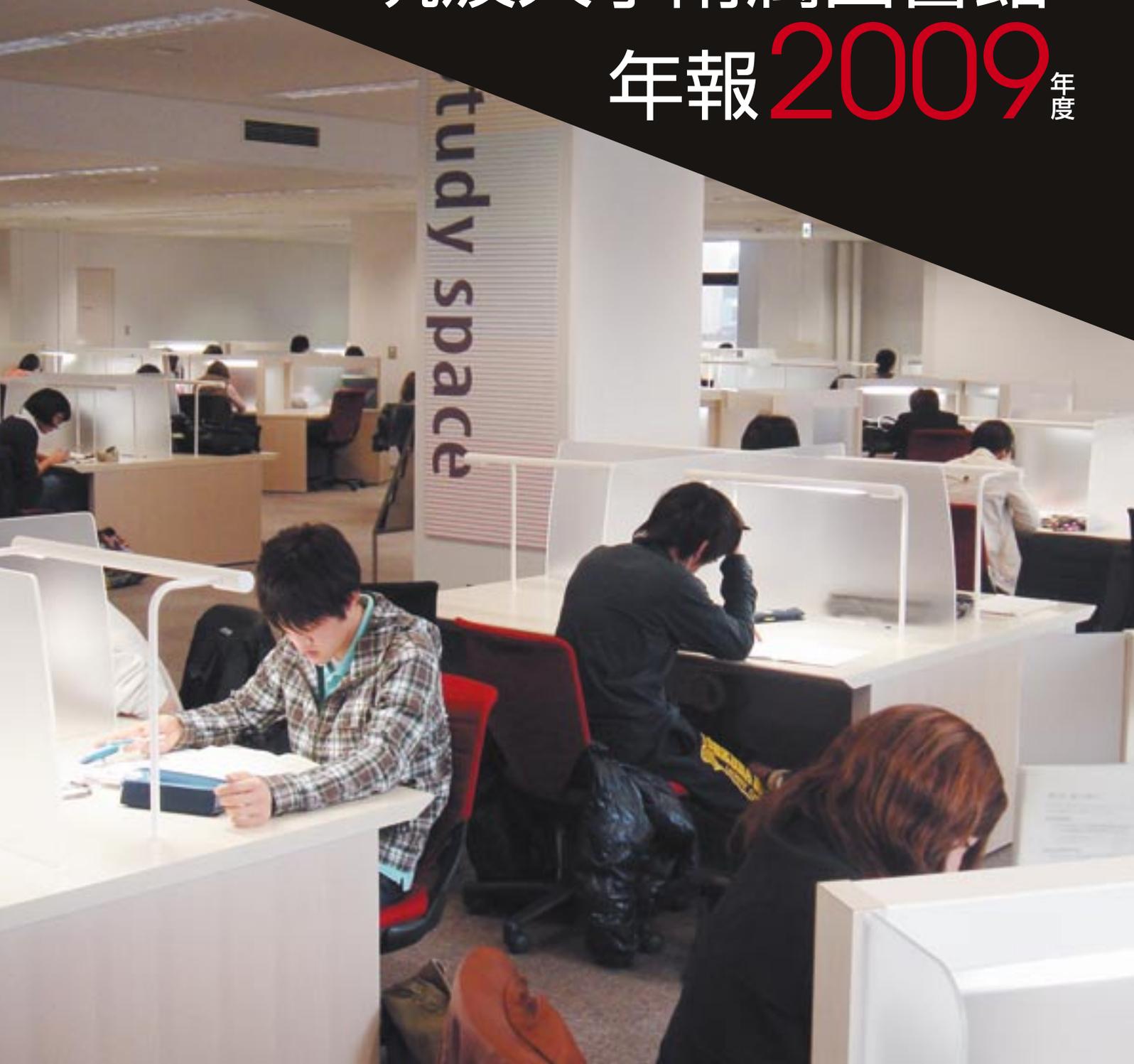




筑波大学附属図書館 年報2009_{年度}



目次

C O N T E N T S



1	1 館長挨拶
2	2 トレンド 電子図書館システムの評価軸
4	3 フォーカス (2009年度の特徴的な活動・事業) 1) 中央図書館耐震改修工事 2) 東京キャンパス大塚地区校舎改築に伴う大塚図書館改築工事 3) ポスター発表@国内会議&国際会議—リポトリ活動を国内外にアピールする— 4) 教育用図書充実と選書体制 5) 広報・プロモーション体制の再構築 6) 2020ビジョン検討WG報告 7) 特別展
12	4 資料紹介 購入資料紹介：女礼式関連浮世絵 20点
13	5 職員の活動 1) 海外出張 2) 論文発表・研修における講師等 3) 職員研修会
16	6 トピックス 1) サービス・活動 2) 見学・来訪者 3) オリエンテーション・講習会 4) 研修・シンポジウム 5) 会議 6) その他
18	7 メディアにみる附属図書館 1) 学内外のメディアに掲載された当館に関する記事 2) 図書館の刊行物
19	8 所蔵・公開資料の記録 出版・放映・Web上に掲載された所蔵・公開資料
20	9 附属図書館ボランティアの活動
21	10 組織図・歴代館長
22	11 統計



筑波大学附属図書館長

植松 貞夫

新たな飛躍を期す

第2号となる「筑波大学附属図書館年報2009年度」をお届けします。昨年度の創刊号は学内外から思いがけない程の反響があり、概ね高評価を得られ安堵しております。本号以降もさらに内容を充実させていく所存です。

2009年度において筑波大学では学長と執行部が一新され、新体制下で第1期中期目標・中期計画の完了、次期中期目標・中期計画の策定がなされました。附属図書館では従来からのキーコンセプト「新しい時代の大学において存在感を高める」の更なる実質化を目標に、年度計画に掲げた所蔵資料の充実、利用環境の改善、情報発信力の強化に向けた施策を展開するとともに、次期6年間の新たな飛躍への計画を整えました。

具体的には、所蔵資料の充実では、2008年度に決定された電子ジャーナル及びデータベースの整備方針に基づき、主に人文社会系領域の2パッケージを新規契約したほか、大学当局の理解を得てNatureの1907年からのバックファイルの購入など、電子化資料の拡充を図りました。同時に、人文社会系コレクション、教育用図書（シラバス掲載図書）、研究用学術図書それぞれの購入経費を前年度よりも増額し、紙媒体による蔵書補強を定常化することとしました。

利用環境の改善では、中央図書館耐震補強・老朽改修第2期として、本館3階と4階の耐震補強工事に合せ、書架を全て耐震性の高いものに更新しました。補強スペースが多数設置される制約下ながら、当初の意図通り新しい閲覧環境の形成ができたと考えています。また、それに先行する形で、新館の2階に100席の個別性の高い閲覧机を配したスタディスペースを9月の新学期開始に合せ開室し、極めて高い利用実績を挙げています。専門図書館では、図書館情報メディア研究科の経費により、図書館情報学図書館の一角をラーニング commons として整備すること、医学図書館の書架狭隘化の緩和策などを検討しているところです。

これら利用者サービスの改善に深く関係することとして、3月にコンピュータシステムの全面的なリプレースを実施しました。これに際しては2006年の前回更新以降、国内外の範となるシステム構築を目指し、研究開発室を中核に継続的に検討・開発を重

ねてきました。その中心が「次世代OPAC」の開発です。従来は個別のサービスであった蔵書検索（OPAC）や論文検索を統合されたインターフェースによって検索・表示し、表示結果から所蔵の確認や全文データへのリンク、文献複写の申込等も可能とすることによって、利用者が必要とする情報資源への到達を効率的に支援できるシステムとなりました。同時に、国立情報学研究所で大学と連携・構築を進めている学術認証フェデレーション（UPKI-Fed）の認証方式を導入し、学外からの電子ジャーナル等の利用環境が向上しました。

情報発信力の強化では、学内外で学術機関リポジトリの認知度が高まり、学術雑誌掲載論文が4月に2,000件を超え、「つくばリポジトリ」全体の収録コンテンツが20,000件を突破するとともに、連携した活動が増えました。学内では、第2期中期計画事項である「知の集積」構想の基盤となる「研究業績登録支援システム」の開発に携わり、学外では、筑波研究学園都市内の研究機関と連携した「つくばWANサイエンスリポジトリ」の活動で中心的な役割を果たし、新たなインターフェース「つくばシャーレ」を開発しました。

中央図書館の第3期耐震改修工事は残る5階が対象です。改修済み範囲の拡大に伴い、学外での保管のため利用停止を余儀なくされていた資料の提供を一部再開するなど、正常化に向けて着実に歩を進めながら、配架位置の変更や工事騒音等、利用者の不便・不都合を最小限にとどめるべく対応に万全を期しています。また、東京大塚キャンパス校舎の全面改築工事のため、大塚図書館は工事完了まで東京キャンパス神保町地区他に分散します。限られた面積での限定的なサービス提供ながら最善を尽くすよう準備にあっています。

最後に、3期6年間館長を務めました植松は、任期満了により2010年4月に波多野澄雄新館長と交代します。附属図書館は、新館長のもと、利用者の皆様により一層活用していただけるべく、新たな飛躍を期しています。皆様の忌憚ないご意見をお寄せ下さるようお願い申し上げますとともに、各位の6年間のご鞭撻に謝意を表させていただきます。

電子図書館システムの評価軸

1. 新しいTULIPS

筑波大学電子図書館システム：Tsukuba University Library Information Public Service (以下、TULIPS) が2010年3月に新しくなりました。今度のシステムの目玉は「次世代OPAC」です。OPAC (Online Public Accessing Catalog) とは蔵書目録のことで、図書館が所蔵する資料を管理・検索するために使われます。図書館資料といえば通常、紙媒体の図書や雑誌を思い浮かべますが、電子ジャーナルやデータベースといった電子媒体の資料も図書館資料に含まれます。ただし、電子ジャーナルやデータベースは出版社やベンダー等のサイト上にあり、図書館システムの中に実データがあるわけではありません。つまり、電子ジャーナルやデータベースは図書館資料ではあるのですが、厳密な意味では図書館が「所蔵」しているとは言えないのです。しかしながら、OPACが図書館の資料を管理し、検索するシステムであるならば、所蔵していない電子資料をも含めて統合的に管理・検索できるシステムであるべきです。次世代OPACの「次世代」は、電子資料の登場によって曖昧になった「所蔵」の意味を、システム的に吸収する新しいサービス概念であることを表した言葉といえるでしょう。

次世代OPACは今のところ、海外ベンダーの製品とオープンソースが数種類ある程度です。今回、筑波大学は(株)リコーと協力し、国内ベンダー初の本格的な次世代OPACを開発しました。もちろん仕様策定の段階では、海外製品の導入も視野に入れていましたが、日本語化の問題や業務システムとの連携、また業界の事情等から結果として導入しませんでした。初の国内製品ということで、まだまだ改良の余地はありますが、基本的な部分では海外製品に負けていないつもりです。国内で次世代OPACを導入した大学は九州大学や慶應義塾大学ぐらいで、欧米でもまだそれほど普及していません。筑波大学の電子図書館システムは世界的にも先進的なシステムなのです。

2. 図書館システムとしてのTULIPS

図書館の世界には、図書館サービスを評価するための国際的な基準が定められており、「図書館パフォーマンス指標 (ISO 11620)」と呼ばれています。図書館パフォーマンス指標には大きくわけて、インプット指標、アウトプット指標、アウトカム指標およびプロセスがあります。インプット指標とはどのぐ

らいの資源を投入しているかを測る指標で、予算、蔵書数、人員等があります。アウトプット指標とはどのぐらいのサービスを産出したかを測る指標で、貸出冊数や来館者数、レファレンス件数等があります。アウトカム指標とはどのぐらいの成果ができたかを測る指標で、現在は利用者満足度で測られることが多いようです。個人的には大学図書館の成果は、「学習の進捗」や「研究のアクティビティ」等で測ることができればよいと考えています。

最近、e-SERVQUALやDigiQUALなど電子サービスのための評価指標が提案されていますが、まだ国際基準になるほどではありません。そこでここでは、それらの評価指標を参考に、図書館システムの評価について独自に考察してみます。まずインプット指標ですが、上の国際標準の指標に従うなら、電子ジャーナル数やデータベース数となりますが、システムの評価としては機能の種類や数も含めたいところです。次にアウトプット指標ですが、これも国際標準の利用者数や電子ジャーナルへのアクセス数に加え、どの機能をどれだけの利用者が使ったのかを加えたいと思います。そして、最も難しいのがアウトカム指標です。先に大学図書館のアウトカムは学習や研究への貢献で測りたいと書いたので、図書館システムのアウトカムは、学習や研究のための資料が簡単にすばやく見つけられるかどうかで測りたいと思います。これは、近年Webサイトの評価や情報システムの評価として注目を集めている「ファインダビリティ」という考えに沿ったものです。

新TULIPSはこのファインダビリティ、すなわち文献の辿りやすさを強く意識して設計しました。文献の辿りやすさを左右する要因は検索の精度と操作のしやすさです。検索の精度がよくても検索語の入力から文献表示までの一連の操作が複雑であれば辿りやすいとは言えませんし、操作が簡単でも検索精度が低ければ辿りやすいとは言えません。今回のシステム更新では、検討段階から“Simple & Quick (簡単にすばやく)”をテーマとして掲げました。特にこだわったのがクリック回数です。Googleをはじめとして、最近のWebシステムはワンクリックで情報本体に辿りつけるのが基本です。それに対して既存OPACの多くがワンクリックを実現できていません。そこで、新TULIPSは本文があるものについてはワンクリックでPDFを表示するようにしました。これは簡単なことのように思いますが、かなり面倒な処理です。また、検索効率についても次世代OPACの検索アルゴリズムのチューニングを何度も行いました (しかし、

まだ不十分です)。さらに、TULIPSの次世代OPACで特徴的なのは、所蔵資料検索の対象に機関リポジトリのコンテンツを含めたことです。このおかげで本文がヒットする件数が飛躍的に増えたのと同時に、学内の知的生産物の視認性が高まりました。また、図書の検索結果にGoogleブックスの書影をリンクしていることも特徴です。このように、検索入力窓の裏では多くのプログラムが動いているのです。

その他、新TULIPSには、検索結果を個人スペースに保存できる「わたしの本棚」やデータベース一覧を個人ごとに作成できる「マイリスト」、利用者ごとに部品を組み替えられる「ウィジェット環境」など、個人環境の強化にも力をいれています。ぜひともログインしてからお使いください。

3. WebサービスとしてのTULIPS

図書館システムとしては優れているTULIPSですが、だからといって学生や教職員の満足度が高いかというと、実はそれほどでもないだろうと推測しています。なぜなら学生や教職員にとってシステムの比較対象は他大学の図書館システムではなく、GoogleやAmazonなどのWebサービスだからです。そして、ユーザがWebサービスの良し悪しを判断する要因は、機能もさることながら、見た目のデザインや面白さであることが多いのです。実際、オープン直後、新TULIPSに関するTwitterのつぶやきをみていたら、ほとんどがデザインに関するコメントでした。もちろん、Twitterのコメントだけで全てを判断することはできませんが、利用者の声のひとつとして参考にしてよいでしょう。

インタフェースデザインはコンテンツや機能とは別だと考えられがちですが、システムからみてインタフェースは利用者とは直接、かつ長く接する部分であり、システムに対する印象を決める重要な部分です。わかりやすいインターフェースであるためには、システム作成者の意図が説明抜きで利用者に伝わらなければなりませんし、利用者の想定どおりに操作できなければなりません。これにはデザインに知識のある人が必要です。実は今回のインタフェースデザインは、デザインを勉強している本学の学生の力を借りました。当初提案された業者のデザインがちょっと意に沿わないものだったからです。最初、その学生には自由にデザインしてほしいとお願いしました。すると、かなりお洒落なものがあがってきました。しかし非常に残念ながら、実装の制約により、現在のものになりました。

今回の更新作業でサービスとデザインの相関、スケッチと実装のギャップ等、デザインに関して多くの知見が得られました。次期システムではデザイン指向をより強めたいと考えています。

4. 大学の情報システムとしてのTULIPS

それでは最後に、大学の情報システムという軸から考えてみましょう。筑波大学には、統一認証システム、TWINS、TRIOS、FAIR等の業務系システムや全学計算機システム等の教育系システムに加え、昨年度の補正予算で開発されたe-ラーニングや研究者マップ、研究シーズ等、多くの情報システムが動いています。筑波大学は情報環境機構の中期計画として、乱立するこれらのシステムの整理を目指しており、そのなかで学内の知的生産物を「知の集積システム」として再構成することになりました。学内の知的生産物には、論文、著書、教材、講演資料、特許等があり、現在はデータの発生源、入力する部署、アクセスするシステムが別々です。中期計画ではシステム連携を密にすることで著者を正確に識別し、それぞれの業績を網羅的に捕捉するとともに、集積したデータを業績評価や情報公開など様々な利用できるようにするのが与えられたミッションです。

図書館は2005年度から機関リポジトリという国レベルの事業に関わっており、学内の教員の論文等を収集する努力をしています。これは知の集積という名前のミッションと合致するものであり、学内から中心的役割を期待されています。現在関係部署と色々協議しているところです。知の集積事業で難しいところは、システムそれ自体というより業務フローのとらえ方の部分です。図書館のサービスではなく、大学のサービスという意識で仕事を回せるかどうかが鍵です。図書館だけで閉じたシステムにするのか、大学全体の一部として位置付けるのか、図書館は大きな岐路に立たされています。

5. おわりに

本稿で言いたかったことは、同じシステムでも評価の軸が異なれば、よいシステムにもなりうるし、悪いシステムにもなりうるということです。しかし、それは単なる言い訳で、どの軸から評価してもよいシステムは作れると思っています。そのためには教職員や学生など、多くの利用者の方々の協力が不可欠です。どうぞ新しいTULIPSを使って、論文執筆やレポート作成に役立ててください。そして、どしどしTULIPSへの要望を出してください。皆さんの要望が明日のTULIPSを作っていくのです。

(図書館情報メディア研究科准教授・附属図書館研究開発室員
宇陀 則彦)

1. 中央図書館耐震改修工事

1. 概要

第2期工事により本館3・4階の耐震改修工事が終了しました。あわせて、新館2階にスタディスペース、本館2階に新着雑誌コーナーが設置され、全館のフロアプランに沿って、新しい機能を内包した中央図書館のゾーニングが順次整備されつつあります。また、閲覧室の色調も従来の落ち着いたオーク系のものから、淡いアッシュ系の色調に衣替えし、ソフトな中に明るく清新さを滲えた空間を演出しています。



キャレルデスク



本館2階新着雑誌コーナー

2. 本館3階・4階

耐震改修工事により閲覧室内に多数のブレースが設置されたため、従来の書架スペースや閲覧スペースが削られる結果となりました。セミナー室や研究個室を全館的に再配置して書架スペースに転用し、窓際に省スペース型のキャレルデスクを多数設置し閲覧席の確保をしています。

照明は人感センサーによる省エネタイプのものでランニングコ

ストを抑え、防犯カメラを要所に設置しセキュリティ対策にも配慮しています。



本館3階・4階閲覧室



3. 新館2階スタディスペース

新館2階は、改修前には国際交流コーナーが設置されていましたが、本館3階ラウンジにその機能を移し、あらたに、落ち着いた雰囲気です自学ができるスタディスペースとして衣替えをしました。全館に無線LAN設備が敷設されますので、こちらのフロアでも持込PCでネットワーク利用ができます。また、対面朗読室を2部屋設け、視覚障害者の方の対面朗読サービスに活用しています。

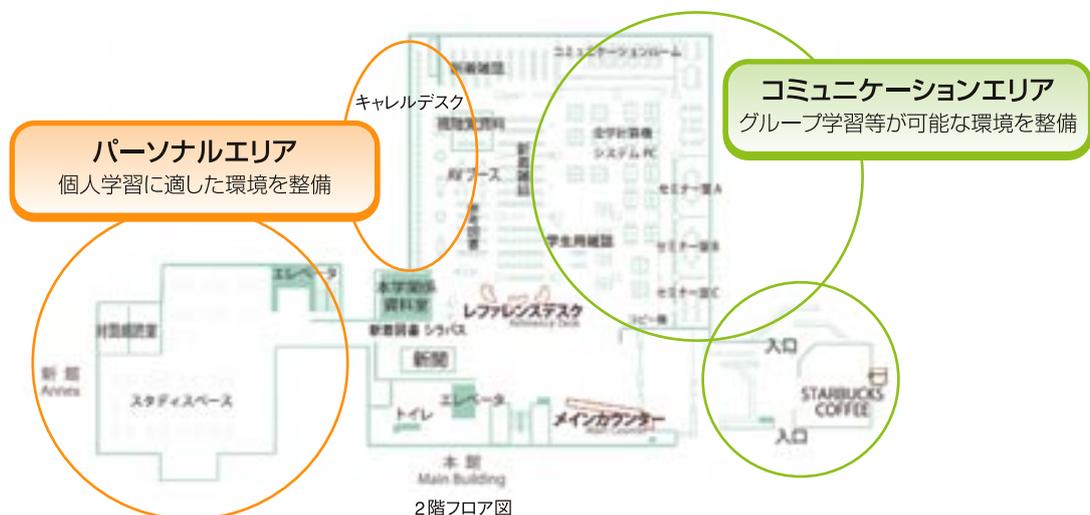


新館2階スタディスペース



4. ゾーニング

第2期工事と併行して、わかりやすいゾーニングを考慮した図書館資料の再配置を行っています。メインフロアである2階は、



ラーニングcommonsへの展開を視野に入れ自習、グループ学習と情報収集の場としての利用環境を整備し、本館3～5階は人文・社会・自然科学の図書、新館3～5階は同分野の雑誌バックナンバーセンターとして整備を行っています。

5. サイン計画

館内は、フロア案内、施設表示、方向表示、書架表示およびカウンター表示など様々なサインで彩られていますが、全館でわかりやすく美しいデザインの規格で統一しています。



サイン（フロア案内・方向表示・書架表示）

6. 第3期工事

本館5階を対象とした第3期工事が平成22（2010）年度予算で措置されました。2008年7月に着工した中央図書館本館耐震改修工事もようやく終盤を迎えようとしています。休館を行わず、工事区画の図書を全て搬出して工事を行う必要があったため、利用者の皆さまには、たいへんご不便をおかけしてきました。改修工事が完了した暁には、新たな機能を備えた総合図書館として、一層ご活用いただける利用環境を提供できることと思います。

2. 東京キャンパス大塚地区校舎 改築に伴う大塚図書館改築工事

1. 概要

平成21（2009）年度補正予算により東京キャンパス大塚地区の校舎改築が措置され、それに伴い大塚図書館も改築さ

れる運びとなりました。工事と併行して、2010年3月に仮校舎に移転し、4月から仮校舎での運用を行い、翌2011年4月をめどに再び新校舎に居を移し、改築成った新図書館での運用を開始する予定です。

新校舎は、放送大学東京文京学習センターとの合築により建設され、従来の夜間大学院の機能に加え、新たに生涯学習拠点としての性格をあわせもつものです。建物は地上5階地下1階建てで、新図書館は地下1階に配置されます。また、現在、東京キャンパス秋葉原地区に分散している法科大学院も時期を合わせて新校舎に統合される予定です。

2. 工事期間中の仮校舎

工事期間中、大塚地区の各部局は三か所の仮校舎に分散します。千代田区神保町の住友神保町ビル（以下、神保町ビル）、住友一ツ橋ビルおよび文京区小日向の旧文京区立第五中学校校舎（以下、第五中学校）です。仮校舎の図書館は神保町ビル1階に配置し、第五中学校の講堂等を図書館資料の保管場所として使用します。

3. 検討体制

新校舎が放送大学東京文京学習センターとの合築となることから、「放送大学と筑波大学の合築調整委員会」を組織し、運営方針等の協議を行っています。また、委員会のもとに「放送大学と筑波大学の合築に関するワーキンググループ」を組織して、「管理・運営」、「施設」および「図書館」に係る懸案の解決に向けて検討を行っています。

4. 新図書館

新図書館は、筑波大学、放送大学のそれぞれが面積を拠出した約1,500㎡の施設となり、筑波大学が図書館全体の管理運用を行う形で、現在、細部の検討、調整を行っています。筑波大学・放送大学の利用者の皆さまに快適な学習空間を提供できるよう施設、設備、サービス等の一層の整備を図っていききたいと思います。

（情報サービス課長 上原 正隆）

3. ポスター発表@国内会議&国際会議 — リポジトリ活動を国内外にアピールする —

1. リポジトリ活動三種

リポジトリに関する附属図書館の活動は、学位論文、紀要、学術雑誌掲載論文等のコンテンツを本学機関リポジトリ「つくばリポジトリ」に蓄積・発信し、本学で生み出された研究・教育成果をより多くの方に知っていただくことを柱としていますが、その他にも、リポジトリに関連するプロジェクトを2つ、並行して実施しています。

その一つが、「オープンアクセスとセルフ・アーカイビングに関する著作権マネジメント・プロジェクト」(以下、SCPJプロジェクト)です。これは、機関リポジトリのコンテンツ拡充に貢献することを目的として、国内学協会等を対象としたオープンアクセス方針に関するアンケート調査を実施し、その調査結果に基づいた「学協会著作権ポリシーデータベース (SCPJデータベース)」¹を作成・公開するプロジェクトです。2006年7月に、国立情報学研究所の委託事業として本学・千葉大学・神戸大学の3大学により発足し、2008年度からは東京工業大学が加わり、現在4大学で活動を続けています。

もう一つは、「つくばサイエンスリポジトリの構築」です。「つくばサイエンスリポジトリ」(以下、TSR)²とは、筑波研究学園都市で生み出された研究成果を集積・保存してインターネットで無料公開するための仕組みで、大学等の研究成果を集積・保存・発信する「機関リポジトリ」を進化させたものです。本学の社会貢献プロジェクトや国立情報学研究所の委託事業に採択され、つくばWAN³をはじめ、筑波技術大学、物質・材料研究機構等の協力を受けてその構築を進めています。

リポジトリに関する活動は、国内においても国外においてもまだ歴史が浅く、欧米を中心に、その在り方や方向性などについて活発な議論が続けられています。このような状況下では、私たちの活動の内容を充実させるだけでなく、これらの活動の存在自体を国内外に知らせることによって、様々な立場や機関の人々から意見や情報を得るとともに、ネットワークを築いていくことが大切です。そのための方法の一つとして、図書館では、国内外の会議等においてポスター発表を積極的に行っています。

2. CSI 委託事業報告交流会

今年度最初のポスター発表の舞台は、2009年7月9日・10日に国立情報学研究所で開催された「CSI委託事業報告交



図1 優秀ポスター賞(総合3位)を受賞した「つくばリポジトリ」のポスター

流会」⁴です。これは、「最先端学術情報基盤 (CSI) 構築推進委託事業として、各機関が2008年度に実施した研究開発及び調査等の結果について情報共有を図るとともに、その成果をCSI構築のために活用する方策等を検討する」⁵ことを目的とした、約70もの受託機関の担当者が一堂に会するイベントです。当館からは、つくばリポジトリ、SCPJプロジェクト、TSRという当館のリポジトリ活動に関するポスターを1枚ずつ計3枚作成して展示し、複数の受託機関の担当者と意見交換を行いました。また、受託機関有志(相互表彰委員会)によるポスター賞の投票では、つくばリポジトリに関するポスター(図1)が優秀ポスター賞(総合ランキング3位)に選ばれました⁶。

3. デジタルリポジトリ連合国際会議 (DRFIC2009)

2009年12月3日・4日には、東京工業大学において「デジタルリポジトリ連合国際会議 (DRFIC2009)」⁷が開催され

ました。これは、国内で開催されるリポジトリに関する国際会議としては唯一のもので、欧米、アジア、オセアニアといった世界の各地域から多彩な講演者を迎えて行われました。当館は本会議の企画運営に携わるとともに、CSI委託事業報告交流会に続いて、リポジトリ活動三種に関するポスター発表を3件行いました。ポスターセッション会場では、国内外の関係者と意見交換や情報共有を積極的に行い、非常に有意義な情報と多くの刺激を受けることができました。さらに、SCPJプロジェクトに関する発表「New SCPJ: Let's develop SCPJ database together!」(図2)は、優秀ポスター賞を受賞しました。

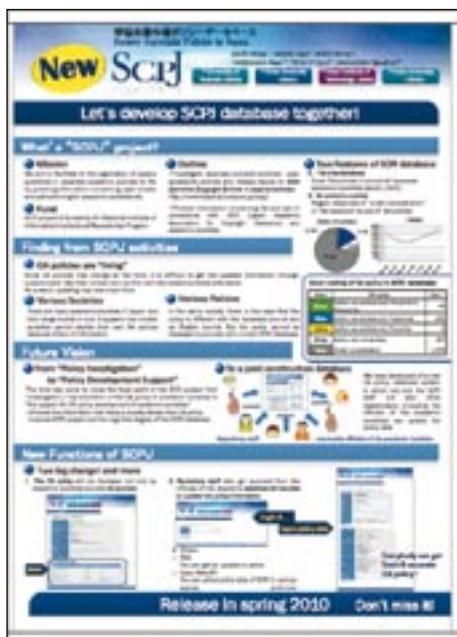


図2 優秀ポスター賞を受賞した「SCPJプロジェクト」のポスター

4. TXテクノロジーショーケースinつくば2010

茨城県科学技術振興財団つくばサイエンス・アカデミーが主催するTXテクノロジーショーケース[®]は、筑波研究学園都市の研究者・技術者が、最新の研究、成果、アイデア、技術を持ち寄り、相互に披露し交流することを目的として、2002年から始められた催しで、9回目となる今回は、2010年1月22日・23日に本学で開催されました。当館からは、研究開発室室員の宇陀則彦図書館情報メディア研究科准教授とその研究室に所属する知識情報・図書館学類の学生の方との共著で、TSRに関するポスター発表「科学の街TSUKUBA再発見プロジェクト—最先端の科学との出会いをもたらす『つくばWANサイエンスリポジトリ』の構築—」(図3)を行いました。

ポスターの内容の概要を1分間で話すインデクシング発表では、多くの参加者を前にTSRの活動を端的にわかりやすく説明しました。またポスターセッションの会場では、筑波研究学園都市の研究成果の集積に関心を持つ自治体や企業の方などから貴重なご意見を聞くことができました。



図3 「TSR」のポスター

5. おわりに

ポスター発表の醍醐味は、発表者と参加者との間の双方向のコミュニケーションにあります。これまで述べてきたような発表の機会を通じて、様々な知見と刺激、そして人的ネットワークを得て、その後の活動に生かすことができたと考えています。

私たち図書館職員にとって、自身の活動を図書館外に出て発信することは、これまであまり経験のないことです。リポジトリに関する活動は、その意味においても図書館の新たな挑戦と言えるでしょう。

- 1 学協会著作権ポリシーデータベース
<http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/>
- 2 つくばWANサイエンスリポジトリ
<http://twrs.tulips.tsukuba.ac.jp/>
- 3 つくばWAN
<http://www.tsukuba-wan.ne.jp/>
- 4 平成20年度CSI委託事業報告交流会(コンテンツ系)
<http://www.nii.ac.jp/irp/event/2009/debrief/>
- 5 下記より引用。
<http://www.nii.ac.jp/irp/event/2009/debrief/>
- 6 ポスターセッション相互表彰結果一覧
http://www.nii.ac.jp/irp/event/2009/debrief/posteraward/poster_award.html
- 7 デジタルリポジトリ連合国際会議2009
http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drffc2009/index_en.htm
- 8 TXテクノロジーショーケースin つくば2010
<http://www.science-academy.jp/showcase/09/index.html>

(リポジトリ担当専門職員 齋藤 未夏)

4. 教育用図書の充実と選書体制

1. 教育用図書の充実

大学図書館は、大学における学習・教育・研究を学術情報の面から支援する中核的機関として位置付けられてきました。近年、学生の自律的学習が重要視されるようになり、授業に関連する資料を整備する必要性が高まってきました。

そこで附属図書館では、2007年から2008年にかけてシラバスに「教科書」や「参考書」として掲載されている図書をリストアップして、未所蔵のもので入手可能なものはほぼすべて購入しました。さらに、2008年度からはWebによるシラバス図書推薦の受付を開始し、図書館ホームページの「マイライブ러리」にログインして、授業担当教員が直接リクエストできる体制を整えました。



シラバス図書推薦の受付画面

これと併行して、シラバスに掲載されている図書以外にも授業と密接に関連する図書を整備するために、学群・研究科に対して、授業中に参考文献として挙げた図書、授業の理解を深めるために役立つと思われる図書の推薦依頼を毎年行っています。これにより、「授業に関連する図書はすべて揃っている」図書館を構築する体制が整いました。

2. 選書体制

図書館予算で購入する資料には、研究科等に選定を依頼するもの、学生の希望によるものの他に、図書館職員による選書

があります。

中央図書館では人文科学・社会科学・自然科学の各分野、各専門図書館ではそのカバーする分野についてそれぞれ図書館職員数名からなる選書班を設けています。選書班のメンバーは出版情報誌・カタログ・書評等を参考にして、主に新刊の学術図書の選書を行っています。これとは別に、選書係の職員が毎週書店に出向いて実際に新刊図書を手にとって内容等を確認しながら選ぶことも行っています。対象となるのは学術研究書、教育に密接に関連する図書、学習を支援する図書で、必要に応じて視聴覚資料やeBookを選びます。選書の際には、学群・研究科の構成、利用者の要望、所蔵図書の貸出状況、他大学図書館の所蔵状況等を配慮し、予算内で効果的な蔵書構成となることを目指しています。

2009年度は主に学群学生、大学院前期課程相当の学生対象の図書に重点を置いて選書し、入門書も多く購入しました。また、以前から要望の多かった講談社ブルーバックスを一括購入しました。

教育用図書や新刊学術図書として購入した図書は、整理後、新着図書コーナーに1週間展示され、貸出も可能です。新着図書は毎日入れ替えを行っており、最新の学術研究図書、授業に役立つ図書が並ぶようになっています。



中央図書館新着図書コーナー

(選書係長 守谷 美佐子)

5. 広報・プロモーション体制の再構築

1. 図書館報「つくばね」休刊からの再出発

創刊（1975年）以来当館の歩みを伝えてきた図書館報「つくばね」（以下、館報）は、発行体制やコストの見直しに端を発し、時代に合った形への転換が必要とされ、第31巻4号（通号120号、2006.3）をもって休刊となりました。

広報の新しい枠組み作りでは、館報が担っていた役割を継承したうえでコンテンツを維持・発展できる柔軟性を重視しました。館報の特性（事業伝達等）に着目して分解し、各特性に適する発行形態（年報・ちらし・Web）に転換しました（図1）。

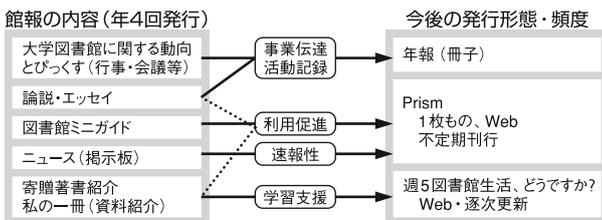


図1 館報「つくばね」の解体と再構築

同時に当館の広報活動を広報と利用促進の観点で俯瞰的に整理しました（図2）。「広報」は事業やサービス等の情報提供、「利用促進」は利用者の興味や行動等の変化を動機づける積極的なアプローチとして位置づけました。

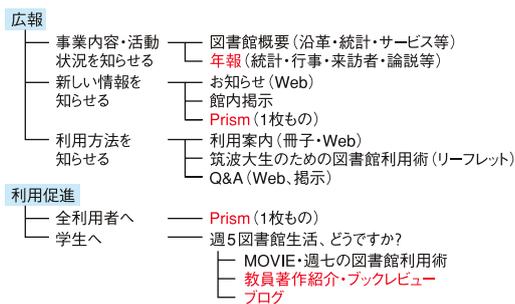


図2 広報活動の全体像：内容とメディア（赤字は新規メディア）

2. 2009年度に誕生した広報メディアのコンセプト

2-1 筑波大学附属図書館年報

事業内容・活動状況の報告・記録を目的として年1回発行します。その年の特徴的な活動を担当職員が執筆することで現場の声を伝えます。

2-2 広報誌Prism [http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/prism/]

利用者への情報発信、利用促進、職員間のノウハウの蓄積と

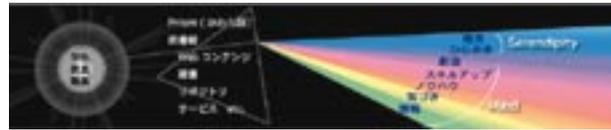


図3 Prismのイメージ

共有を目的として不定期に発行します。

図3は、太陽光（利用者）がプリズム（図書館）を通り虹（可能性）が広がるイメージです。図書館からの情報・サービスが利用者のセレンディピティ（偶然よいものを発見する能力）やマインド（知性）を刺激する、つまり“利用者にとって図書館がプリズムとなる”ことを願い「Prism: Practical Information for your Serendipity and Mind」と名づけました。

2-3 週5図書館生活、どうですか？

学生生活に役立つ情報の提供や学習支援を目指すプロモーションサイトです。

2009年度は、初年次学生に焦点を絞った固定的なコンテンツ構成を見直し、学生全体に対する継続的なプロモーションが可能となるようプラットフォームを再構築しました。提案型の利用ガイドなど2008年度からのコンテンツに加え、教員著作寄贈図書を紹介や教員ブックレビューリレー（Readingバトン）など学生の興味を喚起する企画を実施しています。先生方にご協力いただき、教員のリアルな声を学生に届けるよう努めています。



<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/w5lib/>

3. コミュニケーションの重要性

広報においては、図書館から発信した情報が「自分に関係する情報」と受け止められることがまず重要となります。そのため仕掛けとして情報発信側に利用者を置くこと、すなわち「学生・教員との協同」が効果的であると考えています。その実現のためには、図書館職員の広報・プロモーションに対する意識を高め、利用者との接点を増やす努力が必要だと感じています。

様々な広報活動を通して図書館資源の有効活用を推進するとともに、教育との連携や「利用者と図書館」さらには「利用者と利用者」のコミュニケーションを充実させることで、利用者志向の学習・教育・研究支援を推進できればと考えています。

参考 「Prism」と「週5図書館生活、どうですか？」のWebサイト構築にあたっては、コンテンツの追加・更新が比較的容易にできて、利用者とのコミュニケーション機能を備えたフリーのコンテンツマネジメントシステム「WordPress」を導入しました。

（企画渉外係 村尾 真由子）

7. 特別展

附属図書館では、1995年度以降、毎年、特別展・企画展を開催してきましたが、中央図書館の耐震改修工事の影響で2008年度は特別展・企画展を開催することができませんでした。しかし、2009年度には貴重書展示室の使用も可能となり、開催することができました。2009年度は、10月にテーマの異なる二つの特別展を開催しました。同一年度に二つの特別展を開催するのは1996年度以来二度目のことでしたが、今回の特別展では2週間ほど双方の会期が重なっている時期がありました。同時期に二つの特別展を同時開催したのは初めての試みでしたが、幸い観覧者に大きな混乱もなく、ほとんどの方が両方とも見ていかれたようです。



山田学長も来館され二つの特別展を見学されました

一つ目の特別展は、附属図書館と人文社会科学研究所歴史・人類学専攻との共催によって、10月5日(月)から30日(金)まで、中央図書館貴重書展示室を会場に開催した「日光 描かれたご威光 - 東照宮のまつりと将軍の社参 -」です。

この特別展は、江戸幕府第12代将軍徳川家慶が、天保14年(1843)4月に日光に参詣した際に作成された絵図を中心に、「描かれたご威光」という視点によって、東照宮や将軍・幕府の威光を多様な記録・絵図等によって見ていこう、というテーマによって企画されました。将軍の日光への参詣は「日光社参」と呼ばれていますが、展示の中心となった「日光御参詣警固絵図」18舗は、天保の日光社参の際に将軍家慶を警固した百人組の配置・進行の計画を描いたものです。現代でも公式の行事の折りに重要人物を警備するための警備計画が立てられています。この一連の絵図群は、江戸時代における将軍警備計画図であり、大変珍しいものといえるでしょう。



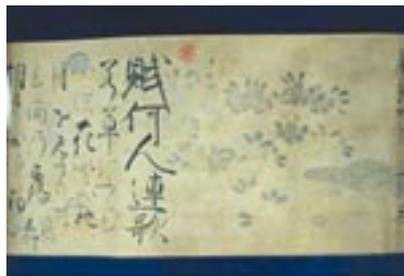
房川船橋勤番繪圖より船橋の部分

本特別展は、人文社会科学研究所歴史・人類学専攻の山澤学講師の企画立案のもと、附属図書館研究開発室のプロジェクトの一つ(プロジェクトリーダーは人文社会科学研究所の大塚秀明准教授)という位置づけによって、館内職員9名によるワーキンググループが山澤講師とともに実施にあたる体制で行いました。図書館のWGは、例年通りポスター・図録のデザイン、図録の版下作成、展示作業、特別展のページや電子展示の作成等の様々な作業を行いました。研究開発室のプロジェクトでもあるので、特に電子展示関係でいろいろな試みをしました。

WGのメンバーによる展示会ブログ、Googleマップを利用した社参のルートの表示や釈文付き画像の公開等を行ったほか、新たなチャレンジとして講演会の様子をYouTubeで公開しました。本学の組織が公式にYouTubeを利用するのは初めてでしたが、講演会の記録として貴重な試みとなりました。本特別展の来場者数は1,334人でしたが、ブログや電子展示、講演会の動画等をご覧になった方を考えると、直接来館されて観覧された方以外にも数多くの方にアクセスしていただいているものと思います。

もう一つの特別展は、10月19日(月)から30日(金)まで中央図書館和装本閲覧室を会場に開催した「筑波大学附属図書館所蔵 連歌俳諧貴重書展」です。こちらも人文社会科学研究所との共催ですが、本学で俳文学会が開催されたことにもなう連動企画という意味合いが強い特別展でした。

和装本閲覧室は貴重書展示室にごく近いところにある上に同時期の開催でしたので、日光の特別展の第二会場と思って入室される観覧者も見受けられましたが、もちろん内容的にはまったく別の特別展です。俳文学会開催期間中は全国から専門家が集まりますので、本特別展での出展物は全点貴重書とし、いわば展示資料そのものをじっくりと見ていただくスタイルをとりました。そのため日光の特別展とはまた違った趣の展示会となりました。特別展が二つ重なったこともあって、こちらは図録を作成せず、キャプションと展示品リストの作成にとどめましたが、俳文学会開催期間に何度も来館されてご覧になる研究者も多く、貴重書の持つ力・魅力を改めて確認できた特別展でした。



賦何人連歌：慶長廿年三月吉日

(情報管理課課長補佐 篠塚 富士男)

購入資料紹介：女礼式関連浮世絵20点

いずれも中央図書館和装本書庫に所蔵

女礼式歌合 暁翠 [画]：武川清吉，[1---]；版画1組(3枚)：木版，多色刷；37×24cm [721.8-Ka96 10009013173]

女禮式給仕之圖 楊洲周延 [画]：武川卯之吉，1890 版画1組(3枚)：木版，多色刷；36×26cm [721.8-H38 10009013174]

婦女禮式圖會 豊原國周筆：石島八重，1889.12；版画1組(3枚)：木版，多色刷；37×25cm [721.8-To85 10009013175]

教育女禮式之圖 勝月画：小林鍊次郎，1888.12；版画1組(3枚)：木版，多色刷；36×24cm [721.8-Ko39 10009013176]

七五三祝ひ之圖 小國政 [画]：清水泰五郎，1895.10；版画1組(3枚)：木版，多色刷；37×26cm [721.8-U96 10009013177]

女禮式之圖 松永吟光 [画]：横山園松，[18--]；版画1組(3枚)：木版，多色刷；36×24cm [721.8-A16 10009013178]

女禮式之圖 松永吟光 [画]：福田熊次郎，1889.1；版画1組(3枚)：木版，多色刷；36×24cm [721.8-A16 10009013179]

婦人諸禮式の圖：屠蘇 楊洲周延 [画]：勝木吉勝，1896.1；版画1組(3枚)：木版，多色刷；36×26cm [721.8-H38 10009013180]

婦人諸禮式の圖：生花 楊洲周延 [画]：勝木吉勝，1896.4；版画1組(3枚)：木版，多色刷；37×25cm [721.8-H38 10009013181]

婦人諸禮式乃圖：婚禮 楊洲 [画]：勝木吉勝，1900.1；版画1組(3枚)：木版，多色刷；36×24cm [721.8-H38 10009013182]

幼女禮式教育之圖 楊洲周延筆：坂井金三郎，[1---]；版画1組(3枚)：木版，多色刷；37×24cm [721.8-H38 10009013183]

女禮式之圖 楊齋延一筆：永松作五郎，1890.12；版画1組(3枚)：木版，多色刷；38×25cm [721.8-Y85 10009013184]

女禮式略圖：婚禮 楊洲周延 [画]：武川清吉，[1---]；版画1組(3枚)：木版，多色刷；36×24cm [721.8-H38 10009013185]

女禮式略圖 楊洲周延 [画]：武川[清]吉，[1---]；版画1組(3枚)：木版，多色刷；38×25cm [721.8-H38 10009013186]

小學女禮式圖解 吟光 [画]：大倉孫兵衛，[1---]；版画3枚：木版，多色刷；38×26cm [721.8-A16 10009013187]

女禮式繪解 [出版地不明]：[出版者不明]，[1---]；版画1枚：木版，多色刷；37×25cm [721.8-J75 10009013188]

小兒教育女禮式 廣清筆：小林新吉，[1---]；版画1枚：木版，多色刷；35×24cm [721.8-H71 10009013189]

女禮式 渡邊忠久，1891.9；版画1枚：木版，多色刷；19×25cm [721.8-J75 10009013190]

女禮式教訓畫 渡邊忠久，1892.8；版画1枚：木版，多色刷；41×54cm [721.8-J75 10009013191]

今様女禮集：祝賀の楽 太田吉次，1896.1；版画1枚：木版，多色刷；39×53cm [721.8-146 10009013192]



女礼式歌合

明治の女子教育で、重視されたことの一つに礼法があります。学校でも家庭でも教えられました。男性中心の社会でしたから、礼法といえば、男性向け、もしくは男女向けの礼法であり、女性のみを対象としたものは《女礼》といました。需要があったので、礼法の本が、学校教育用、家庭教育用ともに多く出版されています。前身が師範学校・教育大学であったこともあり、筑波大学中央図書館にも多くの礼法の本が所蔵されています(何文庫に礼法の本が多いか、ご存じですか?)。

さて、礼法の本には及びませんが、同じく需要があったのでしょう、女礼式と題された浮世絵等も多く刷られました。一枚ものもあれば三枚続きもあり、シリーズものもあります。木版もあれば石版もあり、大きさもさまざまです。礼法の本は、どのようなものが出版されたか、かなりわかっているのですが、浮世絵等はその実態がよくわかっていません。いったいどのくらいの種類があるのか、どのような内容の絵が多いのか、といったことなどわからないことがたくさんあります。

①そうした研究課題を持つ資料であり、さらには、②出版、メディア、女子教育等、ひろい意味での明治文化研究の基礎資料であり、③デジタル加工して何らかのコンテンツとして使用することができるとともに、④原本もビジュアル的に展示品としてたえられる、といったいろいろな価値を持つ資料として、今回、購入したのは、主に明治20年代に刷られた女礼式関連浮世絵20点です。枚数、形態など、さまざまなものが含まれており、わずか20点ですが、女礼式の図絵がどのようなものか、あるていど見通せる内容となっています。

(図書館情報メディア研究科教授 綿抜 豊昭)

※この資料は、附属図書館の平成21(2009)年度人文社会系コレクションとして決定し購入しました。

1. 海外出張

続けるということ：ドイツスタディツアー参加後報告

徳田 聖子（電子図書館係主任）

2009年11月22日から29日まで、東京ドイツ文化センター主催のスタディツアーに参加しました。ドイツ出張報告としては、後述の参考文献に詳述されていますのでこれを参照頂くことにし、本稿ではツアー後に行われた関連の活動をご報告します。

2010年3月25日、京都ドイツ文化センターにて当スタディツアーの報告会が開かれました。日本からは大学図書館や研究機関より12名が5機関を訪問しましたが、日程を経るにつれメンバー同士も打ち解け、団結し、ツアー後も相互にドイツの学術情報流通について理解を深めた成果が、この京都報告会に集約されています。ドイツでは私立大学がほぼ存在せず、教育研究は政府が

税金を投じて担うもの、それゆえナショナルライセンス、オープンアクセスの思想が根付いていることを、ツアーでは実感とともに再認識しました。報告会の資料は後日公開予定で、今後一層の連携と、日本のデジタル化やオープンアクセスを考えるための糧となり、そして関係を築き続けるということに繋がればと願っています。東京ドイツ文化センターのシュメルター所長、マーンケ図書館長をはじめ、お世話になりました皆様にお礼申し上げます。

参考文献：

堀内美穂「ドイツの図書館におけるデジタル化とグローバル化の先進的な取り組み
ドイツスタディツアー報告会&ワークショップ」情報管理 Vol.53 No.1 (2010) 41-44
http://www.jstage.jst.go.jp/article/johokanri/53/1/53_41/_article/-char/ja
坂本拓「ドイツスタディツアー報告-連携と革新-」カレントアウェアネス-E No.269 2010.04.14
<http://current.ndl.go.jp/e1041>



【←写真左】 2009年11月27日 ツアー訪問最終日。マックスプランク研究所でのセッション後、日独の出席者で急遽計画したサプライズ・バースデーパーティーにて。ツアー中は終日、訪問先のプロジェクトの紹介と、デジタル化、リポジトリ、オープンアクセス、図書館システム等について意見交換が行われ、日本からも訪問先別に分担して、参加者各自が20～30分間の発表を行いました。この日は、MPDL（マックスプランクデジタルライブラリ）とNIMS（物質・材料研究機構）が日頃から共同研究を行い、良好な関係を構築していることを身近に感じることができ、最も心に残る1日でした。



【写真左】 2010年2月4日 東京ドイツ文化センターでの報告会（北海道大学・磯本氏）。12名が3グループに分かれてワークショップ形式で実施しました。ポスター展示も行いました。



【写真中】 2010年2月4日 東京ドイツ文化センターでの報告会（東北大学・渡邊氏）。パワーポイントテンプレートと名札はツアーメンバーのオリジナルデザイン。企画運営にメンバーも積極的に参加しました。



【写真右】 2010年3月25日 京都ドイツ文化センターでの報告会（筑波大学・徳田）。業務の都合で参加できず、Flash映像上映による10分間の発表を行いました。

2. 論文発表・研修における講師等

当館職員の論文執筆や、学外の研修・シンポジウム等における講師・事例報告等の活動記録です。

1. 執筆活動

徳田聖子. 英国の図書館における資料保存の一側面. 大学図書館研究, 2009, 第86号, p.28-37

2007年10月に開設した英国図書館のコンサーベーション施設、British Library Centre for Conservation (BLCC) について、設立の経緯と事業の実際を訪問経験も交えつつ報告します。

つくばリポジトリURL <http://hdl.handle.net/2241/105064>

松井 敏也, 篠塚 富士男. 筑波大学附属図書館における環境調査の取り組み. 情報メディア研究, 2009, 8(1), pp.1-10

筑波大学附属図書館の展示および収蔵施設における環境調査(光・空気環境・虫害)の取り組みをまとめた原著論文。

つくばリポジトリURL <http://hdl.handle.net/2241/102873>

「情報メディア研究」Webサイト

http://www.jstage.jst.go.jp/article/jims/8/1/1/_pdf/-char/ja/

植松貞夫. 大学図書館における電子ジャーナルとその展望. 図書館雑誌, 2009.11, Vol.103, No.11, p.756

つくばリポジトリURL <http://hdl.handle.net/2241/105219>

斎藤未夏. SCPJプロジェクトの取り組み—学協会のOA方針の策定支援を目指して—. SPARC Japan Newsletter, 2009.12, No3, p.1-4

つくばリポジトリURL <http://hdl.handle.net/2241/104386>

「SPARC Japan」Webサイト

<http://www.nii.ac.jp/sparc/publications/newsletter/html/3/fa1.html>

2. ポスター発表

「つくばリポジトリ支援システム特集、2008年度総力特集」平成20年度CSI委託事業報告交流会(コンテンツ系), Part2. 成果報告(領域1), 2009.7.9-10, 国立情報学研究所。

優秀ポスター賞 第3位 受賞

筑波大学附属図書館のリポジトリ関連活動報告

https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/portal/tr_houkoku/H20p_tsukuba_tulips-r.pdf

「つくばサイエンスリポジトリ(TSR:Tsukuba Science Repository)におけるコンテンツの構造化と利用価値の向上」平成20年度CSI委託事業報告交流会(コンテンツ系), Part2. 成果報告(領域2), 2009.7.9-10, 国立情報学研究所。

筑波大学附属図書館のリポジトリ関連活動報告

https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/portal/tr_houkoku/H20p_tsukuba_tsr.pdf

「オープン・アクセスとセルフ・アーカイビングに関する著作権マネジメント・プロジェクト(SCPJプロジェクト2)」平成20年度CSI委託事業報告交流会(コンテンツ系), Part2. 成果報告(領域2), 2009.7.9-10, 国立情報学研究所。

筑波大学附属図書館のリポジトリ関連活動報告

https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/portal/tr_houkoku/H20p_tsukuba_scpi.pdf

SAITO Mika, SHINODUKA Fujio, MANAKA Takayuki(2009) "New role of "Tsukuba Repository assistance system" - Progress to system that plays a part in collection of research achievements in University of Tsukuba" DRF International Conference 2009, Poster Session, 3-4 December, Tokyo Institute of Technology, Japan.

「デジタルリポジトリ連合」Webサイト

http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?plugin=attach&refer=DRFIC2009&openfile=poster_P-15_saito.pdf

UDA Norihiko, HOKIMOTO Chika, SHINODUKA Fujio, MANAKA Takayuki, SAITO Mika, SHIMADA Susumu(2009) "Development of interface for visualizing structure among contents in TSR" DRF International Conference 2009, Poster Session, 3-4 December, Tokyo Institute of Technology, Japan.

「デジタルリポジトリ連合」Webサイト

http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?plugin=attach&refer=DRFIC2009&openfile=poster_P-11_uda.pdf

SAITO Mika, HIRATA Kan, MORI Ichiro, HOSOKAWA Maki, TSUKUI Yuko, NAKAYAMA Takahiro (2009) "New SCPJ: Let's develop an open access policy database together!" DRF International Conference 2009, Poster Session, 3-4 December, Tokyo Institute of Technology, Japan.

優秀ポスター賞 受賞

「デジタルリポジトリ連合」Webサイト

http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?plugin=attach&refer=DRFIC2009&openfile=poster_P-14_saito.pdf

宇陀則彦, 保木本智佳, 篠塚富士男, 真中孝行, 斎藤未夏, 嶋田晋, (2009) 「科学の街TSUKUBA再発見プロジェクト—最先端の科学との出会いをもたらす「つくばWANサイエンスリポジトリ」の構築—」第9回TXテクノロジーショーケース in つくば 2010, インデクシング・ポスター発表, 2010.1.22-23, 筑波大学。

「つくばサイエンスリポジトリpilot project」Webサイト

http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/TSR/TX_poster.pdf

3. 講師・事例報告

開催日	氏名	催し名【テーマ・レジュメ・参考URL】
2009.7.9 - 2009.7.10	関川 雅彦	平成20年度CSI委託事業報告交流会(コンテンツ系)～機関リポジトリの更なる普及と新たな価値創出に向けて～(国立情報学研究所) 【テーマ】Part6 パネルディスカッション 機関リポジトリの更なる普及と新たな価値創出に向けて(パネラー)
2009.7.15 - 2009.7.17	峯岸 由美	平成21年度第3回自録システム講習会(図書コース)(国立情報学研究所)(講師)
2009.10.1	関川 雅彦	平成21年度図書館職員短期研修(京都大学) 【テーマ】図書館の資料構成と電子コンテンツ導入(講師) 【レジュメ】 http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/librarian/h21/lib09.pdf
2009.10.10	斎藤 未夏	第3回IT担当職員SDプログラム(東京慈恵会医科大学) 【テーマ】つくばリポジトリ構築までの経緯と現状そして展望～(講師)
2009.10.22	仲川 敦子	2009年度私立大学図書館協会東地区部会研究部研修会「行きたいくなる図書館、利用しなくなる図書館-Library 2.0に向けて」(東京農業大学) 【テーマ】ボランティアは図書館を変えたか?導入から14年-(事例報告) 【レジュメ】 http://hdl.handle.net/2241/104849
2009.10.29	関川 雅彦	平成21年度図書館職員短期研修(東京大学) 【テーマ】図書館の資料構成と電子コンテンツ導入(講師) 【レジュメ】 http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/librarian/h21/lib09.pdf
2009.11.11	斎藤 未夏	第5回DRFワークショップ「2009年、いま改めてリポジトリ」(シニア)横浜 第11回図書館総合展 【テーマ】今さら訊けないリポジトリのA to Z(パネラー) 【参考URL】 http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drif/index.php?DRF5
2009.12.3 - 2009.12.4	真中 孝行 平田 完 嶋田 晋	DRFIC2009 デジタルリポジトリ連合国際会議2009「オープンアクセスリポジトリの現在と未来」(東京工業大学) 【テーマ】TSR、SCPJ、つくばリポジトリのポスター発表 【ポスター】2.ポスター発表参照
2009.12.24	植松 貞夫	国立大学図書館協会シンポジウム「学術情報流通の改革を目指して3」(東京大学)(パネラー)
2010.1.22 - 2010.1.23	嶋田 晋	第9回TXテクノロジー・ショーケースin つくば 2010(筑波大学) 【テーマ】科学の街TSUKUBA再発見プロジェクト -最先端の科学との出会いをもたらす「つくばWANサイエンスリポジトリ」の構築-(インデクシング・ポスター発表) 【ポスター】2.ポスター発表参照
2010.2.4	徳田 聖子	ドイツ・スタディツアー報告会&ワークショップ(東京ドイツ文化センター) 【テーマ】ワークショップ「図書館の可能性:デジタル化・保存・公開・連携への取り組み」(パネラー)
2010.2.5	関川 雅彦 斎藤 未夏	第6回DRFワークショップ「これまでの5年間、これからの5年間」(北海道大学) 【テーマ】これまでの5年間(斎藤、事例報告)、これからの5年間(関川、パネラー) 【参考URL】 http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drif/index.php?DRF6
2010.2.6	嶋田 晋	大学図書館問題研究会近畿4支部新春合同例会「広報にキャラクターを活かす」(奈良県中小企業会館) 【テーマ】がまちゃんばーとちゅーりっぴさんの生態～筑波大学附属図書館でのキャラクター活用事例～(事例報告) 【レジュメ】 http://hdl.handle.net/2241/105066
2010.2.18	安島 明美	茨城県図書館協会第2回情報サービス研修会(筑波大学) 【テーマ】日本語論文を検索してみよう、新聞記事検索、学術機関リポジトリ(演習講師)
2010.3.11	篠塚富士男	鳥根県立大学・高等専門学校図書館協議会平成21年度職員研修会-学生用コレクションの整備とリポジトリの運用-(鳥根大学) 【テーマ】筑波大学における学術情報サービスの現在(講師)
2010.3.12	落合 厚子	鳥根大学附属図書館職員研修会 (鳥根大学) 【テーマ】筑波大学における古典籍の整理・管理運用の実際(講師)



第9回TXテクノロジー・ショーケースin つくば 2010にてインデクシングを行った嶋田晋図書購入係員

3. 職員研修会

2009年度は、職員の資質向上と経験の共有を図るため計4回実施しました。

日時	場所	参加者数
第1回 2009.9.15 16:15-17:30	集会室	
図書館の資料構成と電子コンテンツ導入	関川雅彦情報管理課長	21人
第2回 2009.10.16 16:00-17:10	集会室	
図書館における大学生の情報探索行動	安藤孝政 (図書館情報専門学群4年)	21人
機関リポジトリ収録コンテンツにおける利用数とアクセス方法、コンテンツ属性の関係	佐藤翔 (図書館情報メディア研究科大学院博士前期課程2年)	
第3回 2009.12.21 13:30-15:00	新館会議室	
DRFIC2009 報告会	斎藤未夏(リポジトリ担当専門職員) 真中孝行(電子図書館係長) 平田完(相互利用係主任) 嶋田晋(図書購入係)	26人
第4回 2010.3.17 15:00-16:40	新館会議室	
ドイツ・スタディツアーで見たこと、聞いたこと	徳田聖子(電子図書館係主任)	31人
ERDBとは?	中山知士(雑誌受入係)	
せんとかんの生態～奈良で見たキャラクターのツボ	嶋田晋(図書購入係)	



第2回



第3回



第4回

1. サービス・活動

日付	内容
2009.4.8	広報誌「Prism」創刊
2009.4.24	つくばリポジトリに登録された学術雑誌掲載論文が2,000件を突破
2009.8.25	「Prism」Webサイトリニューアル
2009.9	「筑波大学附属図書館年報」創刊
2009.9.1	中央図書館新館2階スタディスペースオープン
2009.10.5 - 10.30 (10.17・18を除く)	特別展「日光 描かれたご威光―東照宮のまつりと将軍の社参―」開催 (共催:人文社会科学研究所 歴史・人類学専攻)
2009.10.11	特別講演会「日光 描かれたご威光」開催
2009.10.11 - 12	学園祭でブックトークを開催(参加者55名)(協力:本学学生グループ "3E café project team")
2009.10.19 - 10.30	筑波大学附属図書館所蔵 連歌俳諧貴重書展開催(共催:人文社会科学研究所)
2009.11.2	筑波大生のための「週5図書館生活、どうですか?」Webサイトリニューアル
2009.11.11	附属図書館ボランティアによる留学生対象のちりめん細工講習会を開催
2009.12 - 2010.2	EJ / DBリモートアクセスサービスモニター実験を実施
2009.12.24	教員著作寄贈図書リストおよび教員著作紹介コメントの公開を開始(週5図書館生活、どうですか?)
2010.1	「特別支援用筑波地区搬送貸出サービス」を開始。 (障害者は筑波地区いずれの図書館所蔵資料でも指定の図書館で貸出可能に)
2010.2.8 - 2010.3.8	中央図書館本館3・4階プレオープン
2010.2.24	附属図書館ボランティアによる留学生対象のおりがみ講習会を開催
2010.3	電子図書館システム更新
2010.3	EJ・DBリモートアクセスサービス「Tulips Warp」開始
2010.3.29 - 2010.4.30	図書館経費購読雑誌に関するアンケート実施

2. 見学・来訪者

日付	内容
2009.7.1	台湾国立彰化師範大学 8名
2009.7.3	北京電子科学技術学院 16名
2009.7.6	華南師範大学 5名
2009.7.28 - 30	オープンキャンパス 1,214名
2009.7.29	台湾精華大学 10名
2009.9.2	JICA 15名
2009.10.28	北京市高校生(ティーンエイジ・アンバサダー) 52名

日付	内容
2009.11.18	中国黄岡師範学院 16名
2009.11.20	マカオ大学 2名
2010.1.6	韓国チャンウォン大学(学生) 46名
2010.1.27	上海師範大学(学生) 31名
2010.2.2	中国華東師範大学 3名
2010.2.10	韓国釜山大学インターシップ 3名
2010.3.26	北京航空航天大学 16名

3. オリエンテーション・講習会

内 容	実施回数	参加者数
新入生オリエンテーション(学群学生)	16回	2,116名
新入生オリエンテーション(大学院生)	9回	206名
留学生オリエンテーション	9回	222名
フレッシュマンセミナー(各学類等)ほか	32回	999名
自由テーマオリエンテーション	27回	86名
図書館の本や雑誌の探し方講習会	9回	58名

内 容	実施回数	参加者数
論文の探し方講習会	38回	262名
新任教員オリエンテーション	1回	13名
職員オリエンテーション	6回	26名
授業「基礎科学実験」の2週分を担当(2009.5)		
授業「知の探検法」の4回分を担当(2010.1-2)		

4. 研修・シンポジウム

日 付	内 容
2009.7.6 - 7.17	平成21年度大学図書館職員長期研修 (受講生 35名)
2009.7.27 - 8.7	インターンシップ (筑波大学情報学群 知識情報・図書館学類 3名)
2010.2.10	国際インターンシップ (釜山大学 3名)
2010.2.18	茨城県図書館協会情報サービス研修会開催 (参加者 34名)

5. 会 議

日 付	内 容
2009.4.21・7.3・10.2 2010.3.5	附属図書館運営委員会
2009.5.10 2010.3.23	附属図書館研究開発室運営会議
2009.6.9・9.24 2010.2.16	附属図書館収書専門委員会
2009.6.19 2010.2.18	図書館情報学図書館専門図書館委員会(2009年度第2回を以って廃止)
2009.12.15	附属図書館ボランティア専門委員会
2010.1.14・3.12	放送大学と筑波大学の合築に関する図書館WG

6. その他

日 付	内 容
2009.4.20 - 2009.12.11	中央図書館耐震改修工事(第2期)
2009.6.19	平成21年度国立大学図書館協会賞を受賞 (筑波大学附属図書館プロモーションビデオ制作ワーキンググループ)
2010.2	図書館情報学図書館 ブラウジングコーナーリニューアル
2010.3.26	中央図書館3階・4階・新館2階に防犯カメラを設置
2010.3 -	東京キャンパス大塚地区校舎改築に伴い、 大塚図書館が仮校舎へ移転



平成21年度国立大学図書館協会賞受賞式
(第56回国立大学図書館協会総会)

メディアにみる附属図書館

1. 学内外のメディアに掲載された当館に関する記事

日付	掲載元	メディア	掲載内容
2009.6.19	カレントアウェアネス-R http://current.ndl.go.jp/	Web	筑波大学附属図書館、つくばリポジトリに関する学長インタビューを公開
2009.6.22	ACADEMIC RESOURCE GUIDE No.380 http://www.ne.jp/asahi/coffee/house/ARG/index.html	Web	筑波大学附属図書館、つくばリポジトリに博士論文300件を追加 [新着・新発見リソース]
2009.10.5	筑波大学新聞 第280号	学内新聞	日光 描かれたご威光 本学講師による講演も
2009.10.10	筑波ジャーナル No.270	新聞	図書館特別展 幕府の威光を描く 日光社参の様子を紹介
2009.10.12	常陽新聞	新聞	日光社参関連の30点紹介 筑波大附属図書館で「日光描かれたご威光」30日まで開催
2009.10.16	朝日新聞茨城版	新聞	将軍の日光参拝 警備絵図公開 30日まで筑波大図書館
2009.11.9	筑波大学新聞 第281号	学内新聞	特別展 日光描かれたご威光 本学所蔵の絵図を公開 山澤講師の講演会も
2009.11.10	筑波ジャーナル No.271	新聞	Interview 大学図書館について語る 筑波大附属図書館長 植松貞夫教授「頼られる図書館へ 情報発信の役割も担う」



つくばリポジトリ学術雑誌掲載論文
2,000件突破記念
山田信博学長インタビュー



特別展会場

2. 図書館の刊行物

筑波大学附属図書館概要2009

Outline of the University of Tsukuba Library 2009

筑波大学附属図書館利用案内2009

筑波大学附属図書館年報2008年度

Prism (Practical Information for your Serendipity and Mind)

No.1 2009.4.8	週5図書館生活、どうですか?
No.2 2009.4.13	SciFinder Web版が利用可能になりました
No.3 2009.4.21	中央図書館耐震改修工事(第2期)のお知らせ
No.4 2009.6.18	メールサービス@役立つ情報をメールでお知らせ
No.5 2009.8.28	ネットで更新!
No.6 2009.9.2	秋の講習会に参加しませんか?
No.7 2009.9.3	新たな生活空間(中央図書館2階)ー学ぶ・集う・くつろぐー
No.8 2009.9.16	学園祭でブックトーク
No.9 2009.10.23	興味ひろがるブックトーク 3Ecafe project team × Libraryブックトーク開催結果報告
No.10 2010.2.8	中央図書館本館3F・4Fプレオープン
No.11 2010.2.10	ブラウジングコーナーリニューアル!! (図情図書館)
No.12 2010.3.29	図書館経費購読雑誌アンケート実施!!

平成21年度筑波大学附属図書館特別展
日光 描かれたご威光ー東照宮のまつりと将軍の社参ー (図録)



Prism
Webサイト
アクセス数
No.1



8

所蔵・公開資料の記録

ブックトーク(学生との共同企画)

出版・放映・Web上に掲載された所蔵・公開資料

日付	内容	資料種別	資料名	請求記号	資料ID	掲載書名等
2009.4.28	Web上での 電子的掲載	貴重	鯨絵:3 伊勢大神鯨をこらしめる	726.1-N47	10084019123	防災情報新聞(Web版)「ぼうさい閑話:ないむるの神々」 http://www.bosaijoho.jp/reading/chat/
4.30	出版	貴重	節用集	チ320-12	10076701260	「改訂新版 古本節用集六種 研究並びに総合索引」 2009.5.25 再版
5.19	出版	和装古書	信州海津ノ城ノ圖	ヨ150-38	10076879700	「歴史街道」7月号
5.25	出版	和装古書	駿府御城郭之圖	ヨ150-39	10076879701	「日本の城」山川出版社 2009.9
6.11	Web上での 電子的掲載	貴重	下學集	チ320-8	10076701257	全国納豆共同組合連合会納豆PRセンター「納豆文学史」 http://www.710.or.jp/bungakushi/index.html
7.3	放映	貴重	世界図会 外 コメニウス文庫全体	E100-c93	10076344073 外	「情報メディアの活用('10)」第5回 放送大学 2010.7放映(未定) 以降4年間同時期に放送予定
7.7	出版	貴重	新古今和歌集 上	ル210-77	10076713906	「整理と対策 国語」(平成22年度 ~25年度版)明治図書 2009.9.1
7.15	出版	和装古書	衣喰住之内家職長幼絵解之 図 第7石工	へ950-宮193	10088015224	「週刊世界百不思議」講談社 2009.8.27
7.21	出版	和装古書	兒學教導單語之圖:五十音 圖	へ950-宮203	10088015209	「月刊視聴覚教育」 2009.8.1
7.22	出版	和装古書	竹斎	ル150-38	10076720874	「仮名草紙の物語-『竹斎』・『浮世物語』 論」青山社 2009.10.1
7.27	その他 (歩行者広場・歴史 揭示看板)	和装古書	隅田川向島絵圖	ネ040-91	10076904363	歴史揭示看板(場所:曳舟駅前地区歩 行者広場 揭示者:独立行政法人都 市再生機構)
7.29	出版	和装古書	駿府御城郭之圖	ヨ150-39	10076879701	「謎解き紀行 徳川埋蔵金 下 / 山中 廣稔著」随想舎 2009.10.25
8.4	出版	和装古書	新製輿地全圖	ネ040-384	10076904315	「坂本龍馬地図帳」人文社 2009.9.10
8.11	出版	貴重	解体新書	サ200-6	10076713857	「社会科 重点指導事項習得面白バ ズル」明治図書出版 2009.9.30
9.3	出版	貴重	解体新書	サ200-6	10076713857	「活用:探求力を鍛える「歴史人物42人+α」 穴埋めエピソードワーク」明治図書出版 2010.1
10.6	出版	和装古書	浪華往古図	ネ040-597	10076904336	「大阪古地図むかし案内 / 本渡章著」 2010.1
10.19	出版,Web上での 電子的掲載	貴重	鯨絵:14	726.1-N47	10084019134	「山口県歴史だより」26号 2009.12
10.20	出版	和装古書	學校技藝壽語祿	へ950-宮211	10088015215	「映像学」83号 2009.11.25
10.20	出版	和装古書	Joan. Amos. Comenii Orbis pictus	E100-c92	10076344222	「教育の基本原則を学ぶ/有村久春著」 2009.11.30
11.24	出版	貴重	北野天満宮寄進状御朱印写巻 [筑波大学附属図書館所蔵 北野神社関係文書]	北野社	10003015132 10003015111	「年中行事論叢:日次紀事からの出発 /日次研究会編」岩田書院 2010.4予定
11.24	出版	和装古書	千束原追鳥狩記	キ300-206	10076716926	「歴史雑学BOOK『図解知っているよ うで知らない坂本龍馬』総合図書 2009.12.14
12.25	出版	和装古書	小學教授雙六	へ950-宮203	10088015211	「進研ゼミ 中学講座 入試過去問徹 底解説 2010年上巻 岩手県版」 2010.4.1
2010.2.3	出版	貴重	家禮輯覽	口838-17	10076718686- 10076718691	「アジア文化交流研究」第5号 2010.3.31

※全43件から抜粋したものです。

附属図書館ボランティアの活動

1. 2009年度ボランティア構成

●男性：8 ●女性：35 計43名

〈年齢内訳〉

●30代：1 ●40代：7 ●50代：15

●60代：17 ●70代：3

2. 15年目のボランティア活動

1995年6月に附属図書館ボランティアが活動を開始してから15年目を迎えました。活動内容も定着し、43名の地域住民が利用者支援に貢献され、同時にそれぞれの形で生涯学習を展開するという当初の目的を持っています。

3. 2階カウンターのリニューアル

第1期耐震改修工事の終了に伴い、4月には2階ボランティアカウンターが一押し、10ヶ月閉鎖していた2階での総合案内を再開しました。



4. 活動統計

1 総合案内

●ボランティアカウンター利用者数 2,206人
(学内者：1,825人 学外者：381人)

●図書館見学案内 件数：105 人数：1872
中央図書館：98件 1,515人
体芸図書館：7件 357人

●対面朗読：184時間

2 利用環境整備・特殊資料整理

●シェルフリーディング数 5,288連
(中央図書館：4,508 体芸図書館：780)

●不明図書の発見 22冊

●ラベル補修 1,309冊
(中央図書館：973 体芸図書館：336)

●図書修理冊数 744冊
(中央図書館：143 体芸図書館：601)

3 体芸図書館ポスター整理 561枚

5. 年間行事

1 フォローアップ研修

●業務紹介(目録DB係、相互利用係) 7月

●学外見学(国立情報学研究所) 10月

●学内見学(陸域環境研究センター) 2月

2 意見交換会

●利用環境整備 9月

●総合案内 9月

3 ボランティア懇談会 11月

4 ボランティア講演会 11月

6. 海外からの見学者

海外から多くの見学者が訪れ、その対応にボランティアの出番が増えました。

●ボランティアが対応した海外からの見学者

・中国黄冈師範学院

・台湾清華大学

・北京市高校生



ボランティアを囲む北京の高校生

7. 図書館に新たな提案

11月に開催された「ボランティア懇談会」において、ボランティアから提案があり「特別支援用筑波地区搬送貸出サービス」がスタートしました。これにより、障害者が筑波地区いずれの図書館所蔵資料でも、指定の図書館で貸出をうけることが可能になりました。

8. その他の活動：新たな活動への意欲

●図書修理勉強会

利用者と直接接するカウンターでの活動の他に、「利用環境整備」という裏の活動に20名程のボランティアが携っています。この活動の1つ「図書修理」に対し、よりステップアップした技術の習得に関心が高まり、指導者を招いた「修理勉強会」を定期的で開催しました。今後の新たな活動が期待されます。



●対面朗読学習会

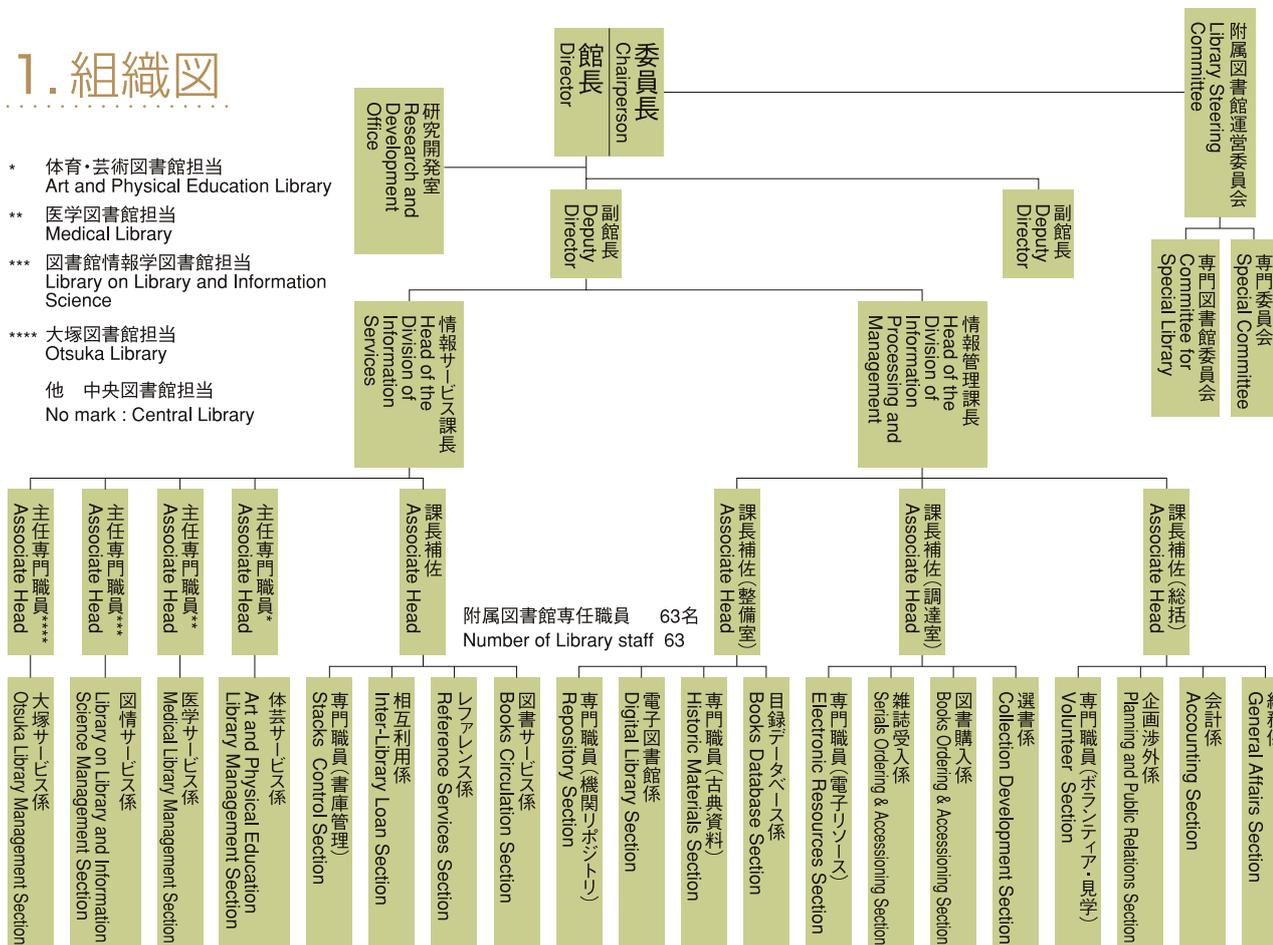
実際に対面朗読サービスの利用者を講師に迎え、実践に基づくアドバイスを受けるなど、貴重な学習会となりました。

(見学・ボランティア担当専門職員 仲川 敦子)

組織図・歴代館長

1. 組織図

- * 体育・芸術図書館担当
Art and Physical Education Library
- ** 医学図書館担当
Medical Library
- *** 図書館情報学図書館担当
Library on Library and Information Science
- **** 大塚図書館担当
Otsuka Library
- 他 中央図書館担当
No mark : Central Library



(2009年4月1日現在)

2. 歴代図書館長

	名前	期間	備考
高等師範学校・ 東京高等師範学校	三宅 米吉	明治32年6月30日～明治36年9月6日	図書係事務監督
	三宅 米吉	明治32年9月7日～明治44年4月29日	主幹
東京文理科大学	松井 簡治	明治44年4月30日～昭和4年3月31日	主幹
	松井 簡治	昭和4年4月1日～昭和7年3月31日	
	諸橋 轍次	昭和7年3月4日～昭和20年10月3日	
東京教育大学	能勢 朝次	昭和20年10月4日～昭和24年5月31日	
	能勢 朝次	昭和24年6月1日～昭和24年8月30日	
	下村寅太郎	昭和24年8月31日～昭和29年7月15日	
	中西 清	昭和29年7月16日～昭和31年3月31日	
	熊沢 龍	昭和31年4月1日～昭和33年3月31日	
	熊沢 龍	昭和33年4月1日～昭和33年4月30日	事務取扱
	熊沢 龍	昭和33年5月1日～昭和35年4月30日	
	肥後 和男	昭和35年5月1日～昭和38年3月31日	
	山崎 宥	昭和38年4月1日～昭和40年3月31日	
	平塚 直秀	昭和40年4月1日～昭和42年3月31日	
	酒井 忠夫	昭和42年4月1日～昭和44年3月31日	
	宮嶋 龍興	昭和44年4月1日～昭和44年4月27日	事務取扱
	酒井 忠夫	昭和44年4月28日～昭和46年4月27日	
	橋本 重治	昭和46年4月28日～昭和47年3月31日	
	武藤 聡雄	昭和47年4月1日～昭和51年3月31日	
	西谷三四郎	昭和51年4月1日～昭和53年3月31日	

	名前	期間	備考
筑波大学	三輪 知雄	昭和48年10月1日～昭和49年5月1日	事務取扱
	酒井 忠夫	昭和49年5月1日～昭和50年4月1日	
	大翼 茂	昭和50年4月2日～昭和52年4月1日	
	高橋 進	昭和52年4月2日～昭和54年4月1日	
	宮嶋 龍興	昭和54年4月2日～昭和54年6月9日	事務取扱
	岡本 敬二	昭和54年6月9日～昭和56年4月1日	
	高橋 進	昭和56年4月2日～昭和56年5月1日	事務取扱
	郡司 利男	昭和56年5月1日～昭和60年3月31日	
	松浦 悦之	昭和60年4月1日～昭和60年4月3日	事務取扱
	升田 公三	昭和60年4月3日～昭和62年6月8日	
	柳沼 重剛	昭和62年6月9日～平成元年6月8日	
	小川 圭治	平成元年6月9日～平成3年3月31日	
	新井 敏弘	平成3年4月1日～平成5年3月31日	
	北原 保雄	平成5年4月1日～平成9年3月31日	2期
	斎藤 武生	平成9年4月1日～平成11年3月31日	
	板橋 秀一	平成11年4月1日～平成13年3月31日	
	山内 芳文	平成13年4月1日～平成15年3月31日	
	林 史典	平成15年4月1日～平成16年3月31日	
	植松 貞夫	平成16年4月1日～平成22年3月31日	3期

統計

平成21(2009)年度

利用統計

	中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合計	
年間開館日数 (日)	平日	237	237	240	216		
	土・日・祝日	86	86	119	102		
	合計	323	323	351	359	318	
入館者数(人)	平日	494,595	161,215	154,141	48,148	15,142	873,241
	(学外者 内数)	(24,499)	(2,780)	(8,155)	(5,221)	(851)	(41,506)
	土・日・祝日	66,699	19,843	40,070	8,394	7,905	142,911
	(学外者 内数)	(6,058)	(704)	(4,616)	(1,678)	(364)	(13,420)
	合計	561,294	181,058	194,211	56,542	23,047	1,016,152
(学外者 内数)	(30,557)	(3,484)	(12,771)	(6,899)	(1,215)	(54,926)	
平均入館者数(人)	平日	2,087	680	650	201	70	
	(学外者 内数)	(103)	(12)	(34)	(22)	(4)	
	土・日・祝日	776	231	351	71	78	
	(学外者 内数)	(70)	(8)	(40)	(14)	(4)	
	合計	1,738	561	553	157	72	
(学外者 内数)	(95)	(11)	(36)	(19)	(4)		
貸出冊数(冊)	学群生	113,725	21,210	17,283	14,860	850	167,928
	院生	129,637	20,741	7,005	10,484	8,653	176,520
	教員	32,582	4,710	3,683	3,637	2,075	46,687
	学外者	3,446	563	741	853	220	5,823
	その他	1,554	0	5	0	0	1,559
	合計	280,944	47,224	28,717	29,834	11,798	398,517
貸出利用者数(人)	学群生	46,982	8,799	9,003	7,021	640	72,445
	院生	41,603	7,502	3,014	4,055	4,561	60,735
	教員	6,210	947	1,254	954	358	9,723
	学外者	1,686	269	341	440	112	2,848
	その他	153	0	4	0	0	157
	合計	96,634	17,517	13,616	12,470	5,671	145,908
文献複写(コピー) (件)	学外依頼	9,977	2,027	3,802	662	1,944	18,412
	学外提供	2,867	351	991	136	207	4,552
	学内遠隔地提供(紙)	783	90	273	140	304	1,590
	学内E-DDS	864	57	301	53	77	1,352
	合計	14,491	2,525	5,367	991	2,532	25,906
相互貸借(図書) (件)	学外借受	2,115	204	42	108	174	2,643
	学外貸出	2,334	196	38	173	30	2,771
	合計	4,449	400	80	281	204	5,414
レファレンス件数(件)	学生	14,828	4,337	2,898	1,455	4,108	27,626
	教職員	2,928	443	3,422	1,735	297	8,825
	その他	882	65	199	241	99	1,486
	合計	18,638	4,845	6,519	3,431	4,504	37,937
	資料に関するもの	13,098	2,751	5,371	2,560	3,240	27,020
利用案内・指導	5,523	2,092	1,148	855	1,263	10,881	
事実に関するもの	17	2	0	16	1	36	
合計	18,638	4,845	6,519	3,431	4,504	37,937	

電子図書館アクセス数

トップページアクセス件数	件
学内	1,906,698
学外	1,105,652
合計	3,012,350

つくばリポジリアクセス件数	件
セッション数	250,183
ページビュー数	686,893

主要な電子ジャーナルアクセス件数(フルテキスト)	件
Elsevier(ScienceDirect)	443,731
Wiley-Blackwell(InterScience)	95,162
Springer(LINK)	74,280
Oxford University Press	30,366
Cambridge University Press	5,315
Nature Publishing Group	86,008

主要な文献情報データベースアクセス件数(サーチ数)	件
Web of Science	179,913
SciFinder	20,139
Journal Citation Reports	12,560
Business Source Premier	8,619
CiNii	806,918
医学中央雑誌	423,990

基盤統計

施設環境

	中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合計
建物面積 (m ²)	19,092	3,518	2,793	3,166	1,105	29,674
座席数 (席)	996	347	349	227	171	2,090
利用者用PC台数 (台)	158	71	75	25	14	343

※2010年3月31日現在。大塚図書館は仮移転に伴い3月から閉館したため移転前の数値を記載。

図書

(冊)

	中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合計
図書の受入 (和洋区分)						
和書	12,712	3,752	1,896	2,507	614	21,481
洋書	5,297	1,036	593	1,386	105	8,417
合計	18,009	4,788	2,489	3,893	719	29,898
(受入区分)						
購入	8,834	1,658	1,441	2,791	495	15,219
寄贈	6,482	2,773	422	744	223	10,644
製本	2,685	351	626	358	0	4,020
その他	8	6	0	0	1	15
合計	18,009	4,788	2,489	3,893	719	29,898
蔵書数 (和洋区分)						
和書	1,044,388	178,608	90,782	166,946	38,685	1,519,409
洋書	770,627	64,943	80,986	72,081	14,539	1,003,176
合計	1,815,015	243,551	171,768	239,027	53,224	2,522,585

雑誌 (冊子) 受入タイトル数

(タイトル)

内訳	購入	寄贈	合計
和雑誌	1,126	6,357	7,483
洋雑誌	2,168	1,028	3,196
合計	3,294	7,385	10,679

雑誌 (冊子) 所蔵タイトル数

(タイトル)

内訳	合計
和雑誌	16,299
洋雑誌	12,663
合計	28,962

電子ジャーナル提供タイトル数

(*有料契約誌のみ)

内訳	タイトル数
Elsevier(ScienceDirect)	2,095
Springer(LINK)	1,838
Wiley-Blackwell(InterScience)	1,327
Oxford University Press	177
Cambridge University Press	234
JSTOR	1,149
Nature Publishing Group	24
その他	3,675
合計	10,519

提供データベース・検索ツール

●学内・館内限定

データベース名

Web of Science
Journal Citation Reports
SciFinder
Business Source Premier
LexisNexis
SportDiscuss
Japan Knowledge
Westlaw Japan
D1-Law.com
CINAHL
医学中央雑誌WEB
PsycINFO
ProQuest Dissertations & Thesis SourceOECD
AIDE (アジア経済研究所アーカイブ)
英国下院議会文書
Books in Print Ulrich
CiNii
Books in Print Ulrich
官報
JDream II
Powder Diffraction File

●学外公開

データベース・検索ツール名

PPRBASE 捕食・寄生昆虫データベース
沖縄歴史文献データベース
応用動物昆虫データベース
日本美術シソーラスデータベース(試験運用版)
展覧会ポスターデータベース
学協会著作権ポリシーデータベース
機関リポジトリ横断検索

つくばリポジトリ 累積登録件数

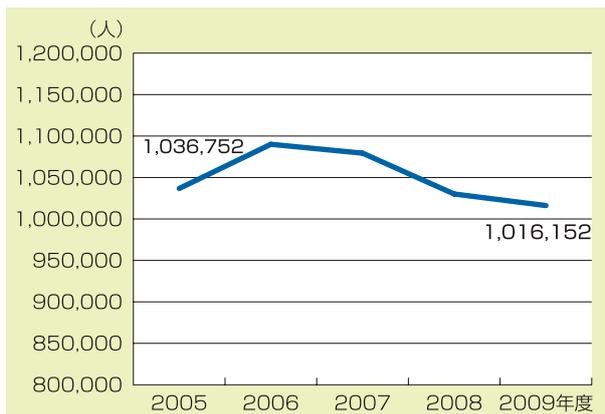
(*2010年3月31日現在)

内訳	タイトル数
学術雑誌掲載論文	2,573
学位論文全文	1,623
学位論文内容・審査の要旨	5,637
紀要論文	11,559
研究成果報告書	992
会議発表資料	48
講義資料	7
研究業績目録	23
つくば3Eフォーラム	34
A-LIEP	62
その他(図書)	23
合計	22,581

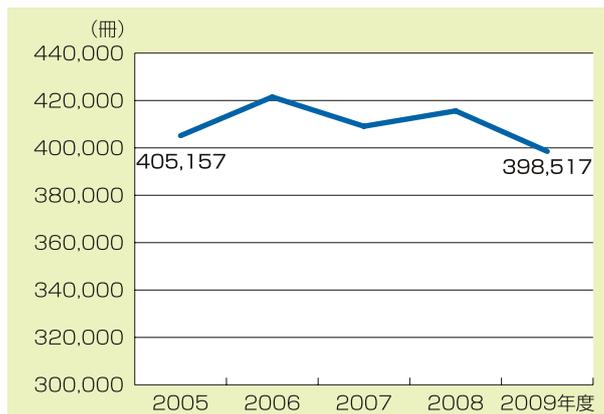
推移と分析

利用サービスの推移

●入館者数



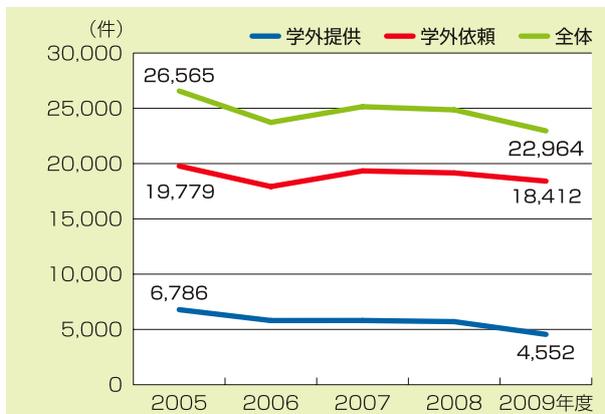
●貸出冊数



入館者数は、昨年度から全体で約14,000人(約1.4%)減少しています。館別に見ますと、中央図書館は昨年度に引き続き2009年度も耐震改修工事がありました。約1%増加しております。しかし、体育・芸術図書館は約2%、医学図書館は約5%、図書館情報学図書館は約5%、大塚図書館は約11%の減少になりました。これは2009年度より、電子ジャーナルタイトル数の大幅な増加など非来館型サービス(電子ジャーナル、Webサービスなど)の浸透が原因の一つと考えられます。また、大塚図書館は、大塚地区改築工事のため、3月の1ヵ月間が閉館となったため大きく減少しております。

貸出冊数は、入館者数に伴う形で約17,000冊(約4.1%)減少しております。2008年度は耐震改修工事の特別貸出により2007年度に比べ増加しましたが、2009年度は耐震改修工事前の減少数(2006年度から2007年度)を超えており、図書の利用が減っている現状が判ります。

●文献複写(コピー)件数



●相互貸借(図書)件数



文献複写(コピー)件数は、昨年度と比較して学外への依頼と提供が共に減少しています。学外依頼の減少は電子ジャーナルの購読タイトル数の増加が要因の一つと考えられます。

相互貸借(図書)件数は、借受は共昨年度とほぼ同数ですが、学外への貸出が増えています。

推移と分析

図書資料受入の推移

● 図書受入冊数 —和洋区分—



● 図書受入冊数 —受入区分—



図書資料は、電子的資料費の負担軽減により、購入予算が前年度より約1,300万円増加し、購入冊数を前年度より約13%増加することができました。また予算の関係上、図書館経費による雑誌製本を前年度実施できませんでしたが、2009年度は可能となり、4,020冊整備できました。

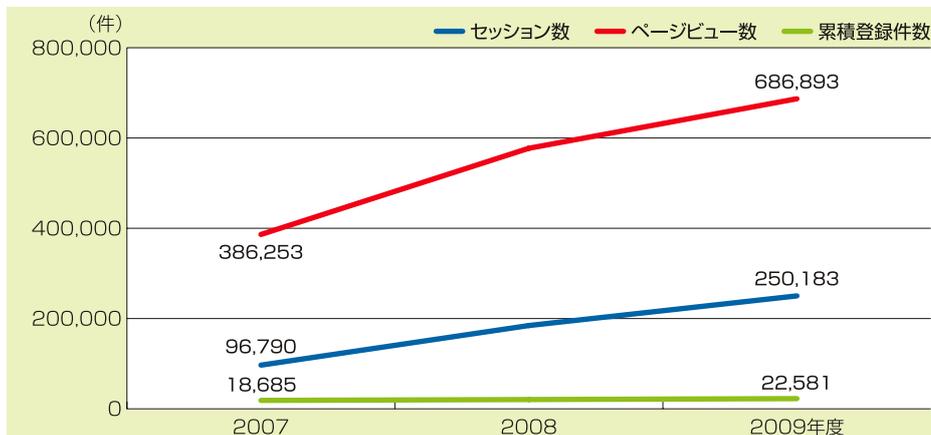
購入冊子と電子ジャーナルタイトルの推移



2009年度から2012年度まで、本学共通経費による安定的な電子ジャーナルの提供が実現し、2009年度は約4,000タイトルを増加できました。

(※2009年度統計より統計数値を整理するに伴い、遡及的に過去の購入冊子数を修正しました。)

つくばリポジトリ 登録件数と利用の推移



2009年度は昨年度ほどの増加率ではありませんが、順調にセッション数、ページビュー数ともに増加しています。着実にリポジトリの認知度が上がっているようです。



筑波大学附属図書館

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
TEL 029-853-2347 FAX 029-853-6052
E-mail voice@tulips.tsukuba.ac.jp
URL <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/>

09

UNIVERSITY OF TSUKUBA LIBRARY
ANNUAL REPORT 2009